

平成 30 年度 学校関係者評価報告書

愛媛県立松山北高等学校
学校番号(23)

評価実施日		平成 31 年 2 月 25 日	
委員	氏 名	所 属 等	
	中屋 佳吾	P T A 会長	
	田中 貴子	P T A 副会長	
	清家三喜子	P T A 副会長	
	倉田 哲雄	学校評議員	清水公民館館長
	黒河 由佳	学校評議員	上鉄砲町広報啓発委員 NPO 法人 森からつづく道 事務局長
評 価 ・ 提 言 等		提言等に対する改善方策等	
1 教育活動全般について ・特に達成できていない項目がなく、P D C A サイクルがきちんと確立され、先生方の御努力の成果と考える。		・C評価が無くなるよう、各課を中心として、学校全体で改善に取り組んでいきたい。	
2 学習指導について ・学習時間と成績の相関がどのようなになっているのかが気になる。質なのか量なのか問われるが、目標として量をとっている理由はいかがか。 ・家庭学習時間については、教員は 70%ができていると感じているが、生徒やその姿を見ている保護者は 50%しかできていると感じていない。せっかく先生が生徒のことを思っているのに、実際に生徒が応えていないのが残念である。 ・「課題や予習・復習を行ってから授業に臨んでいる」に対する生徒の自己評価は、70%弱であるが、「理解できない点はそのままにせず、質問などするようにしている」が 50～60%になっている。理解できない点を質問すれば、もっと成果が上がるのにと感じた。		・学習の質を測定するのは難しい。過年度との比較ができる点もあるので、学習時間という量の面を目標として掲げている。ある程度、学習量と成績の相関はあると考える。 ・国数英の教員は、3 時間くらいかかる分量の課題を出しているが、それは生徒がやろうと思っていてもやれない分量であり、そこに食い違いが生じている。 ・ノート提出をさせたりするが、提出が目的となっている。小テストなどでも、休み時間に慌てて勉強しており、十分な準備ができていない。数学では、基礎・標準から応用・発展へのスモールステップを工夫している。その場で質問をすれば良いが、行列が出来ていたりすると後回しにしてしまう。	
3 進路指導について ・進学の数値目標を掲げているが、私立大学などの合格数は述数であるため、合格の実数や北高生が実際にどこに進学しているかを知りたい。		・ホームページや進路の手引に過去 3 年分は掲載しているが、実数は把握・公表していない。国公立大学では、中期と後期でのダブル合格がある。 ・進学説明会で実数や進学先を説明するとわかりやすくなると考える。	

4 生徒指導について

・安全・安心の項目のC評価について説明をしてほしい。

・前回、右側通行や並進等交通マナーの悪さを指摘させていただいたが、今は良くなって感心している。4月は、新入生が自転車通学に慣れていない影響かと考えている。

・あいさつがきちんとできる点も感心している。朝通学路に立って押しボタンを押してあげると、「ありがとうございました」と男子生徒が気持ちの良いあいさつをしてくれる。

・高校生は運動能力が高いけれども、近隣は年配の方が多いので交通安全に気をつけてほしい。

5 部活動について

・文武両道では、多くの生徒や保護者はできていると思っているのに、教員は半数程度しかできていると感じていない。このギャップはなぜか。朝早くから部活動をやって、授業を受けて部活動をして、帰ってきてから12時位まで勉強している様子を見ていて、よく頑張っていると思うが。勉強の質が良くないのだろうか。

6 ボランティア活動について

・ボランティア活動は素晴らしく、自分の子供にも声をかけて欲しかった。個人的には、表彰をしてあげてほしい。

・あごひもの緩い生徒がいるが、ヘルメットの着用は良好である。ただ自転車通学生の交通事故が発生しているのでB評価は付けられなかった。

・自分の命は自分で守る意識でヘルメットの着用は、ほぼ100%できている。交通マナーや送迎してくる自家用車の乗り降りには、今後も指導が必要である。

・北高生全体としては非常に良くあいさつをしているが、明るさ・元気の良さに課題がある。生徒会の役員や部活動の有志による校門でのあいさつ運動を行っている。

・引き続いて、交通安全とマナーの向上を図るとともに、余裕のある登校を呼び掛けていく。

・やはり勉強の結果が出ていないので教員の側からすると両立ができていないという見方になると考える。

・全国的にも、部活動の休養日の設定や教員の働き方改革が叫ばれており、学習時間が確保できる方向にあると思う。

・西日本豪雨災害があったが復旧に対するボランティア活動に参加した生徒が多かった。生徒会を中心に、興居島の被害状況調査や復旧作業に二学期いっぱいをかけて取り組み、感謝状をいただいた。中心に活動した4名には、善行賞を与える予定である。